

エアータント すぽっとQ

取扱説明書



本書は当社製品「すぽっとQ」を安全に使用していただくための正しい取扱い方法および簡単な保守・点検方法を記載しております。ご使用になる前に必ず本書をよくお読みください。
また、本書はお読みになった後も必ず保管してください。

この取扱説明書には、ご使用に際して特に重要な案内事項を



警告



注意

マークで表現しています。これらのマークで表現した内容は以下のような意味を持ちますので、特に注意してお読みください。



警告

死亡または重傷につながる可能性がある事故を未然に防ぐための事項を示しております。



注意

軽傷または製品や物品の損傷につながる可能性がある事故を未然に防ぐための事項を示しております。

目 次

安全のために必ず守ること	2
各部の名称と仕様	3
構成品の確認	4
事前確認	5
充気前の準備	5
充気	7
充気後の作業	8
テントを長期展張するにあたっての注意	9
テントの固定	9
テント取付け部品・付属部品の取扱い	10
収納	12
収納方法	13
修理方法	15
保守・点検・保管	16

安全のために必ず守ること

ここではエアータントを展張するにあたり、全体に関わる注意事項を説明しています。
あなたと周囲の人の安全を守るために、次の指示に従ってください。各項目における詳細は以降のページの指示に従ってください。

警告 (WARNING)

作業をはじめる前に

この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、作業してください。

火気厳禁

エアータント内で火気は絶対に使用しないでください。

風向き、風量注意

エアータント設営時は風向き及び風力に十分注意し、風上側の開口部ファスナーは閉めた状態で使用してください。

強風下では使用しないでください。

異常や不具合が発生したとき

ただちに使用を中止し、弊社までご相談ください。

注意 (CAUTION)

エアータント引きずり厳禁

エアータントを移動させる時は絶対に引きずらないでください。

エアータント展張後、固定する

エアータント設営時は、固定ロープ・土のう等で状況に応じてテントを固定してください。

長期間使用の際の注意

充排気バルブが緩んでいないか、必ず確認してください。

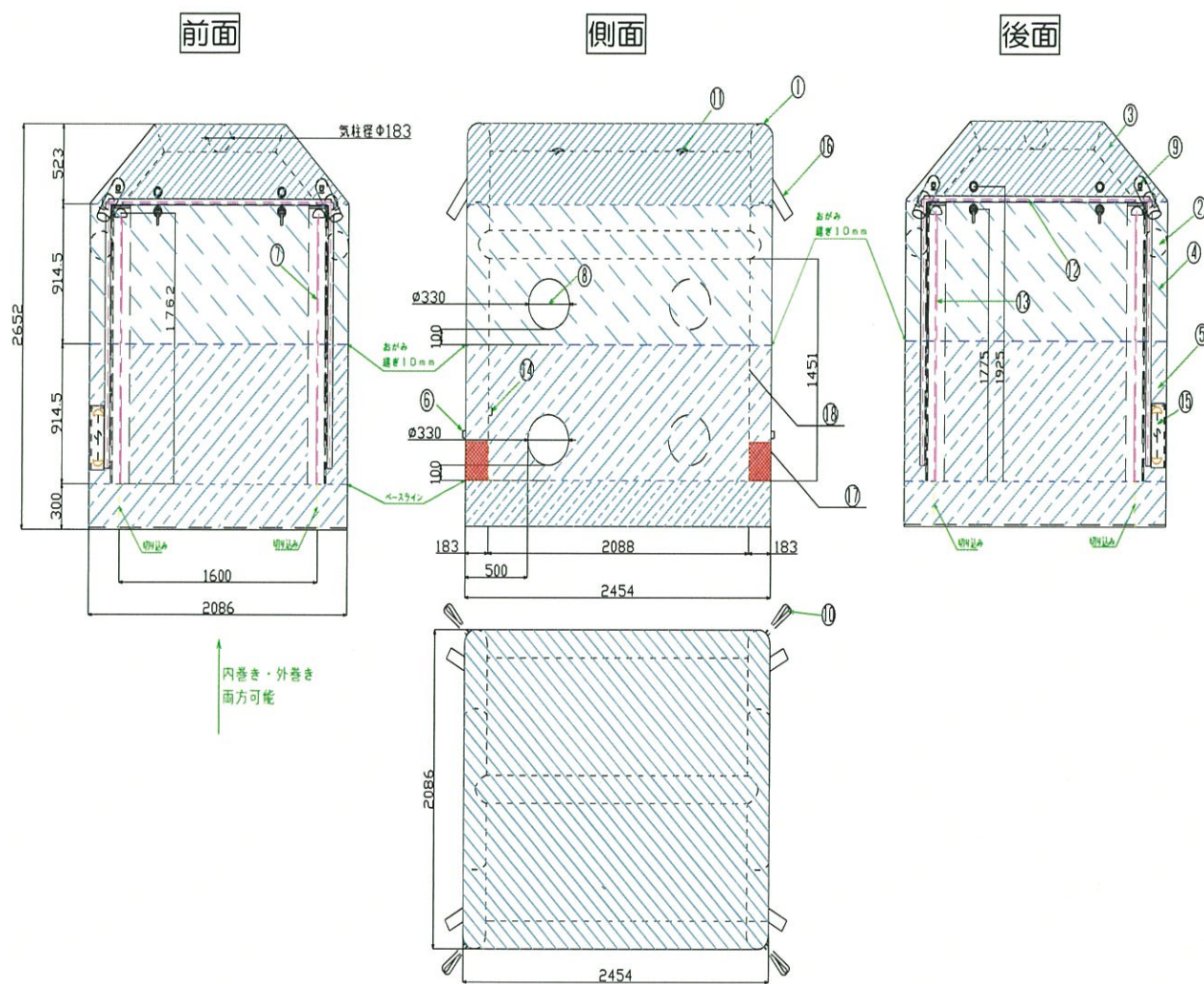
長期使用する場合は、充排気バルブを特にしっかり締めてください。

また24時間以上エアータントを展張する場合、12時間毎に気柱の内圧の確認をしてください。

早朝など気温が低下している時間帯は、適正圧力よりも低くなっていることがあります。

その場合は付属のフットポンプなどを使用し適正圧力まで空気を補充してください。

各部の名称と仕様



番号	品 名		
1	メ イ ン 気 柱	10	取 手
2	横 支 柱	11	ライト取り付け用Dカン
3	天 幕 屋 根 部	12	連結布取付け用ファスナー
4	天 幕 中 央 部	13	後面出入口ファスナー
5	天 幕 下 部	14	安 全 弁
6	充 排 気 バ ル ブ	15	エアー注入口用ファスナー
7	前面出入口ファスナー	16	ロープカバー
8	給 排 気 用 ダ ク ト	17	気柱足カバー
9	ロープ固定用Dカン	18	気柱内側カバー

構成品の確認

このテントはテント本体と標準付属品で構成されています。梱包物の中に下記の資材が揃っているかご確認ください。

テント本体

番号	品名	数量	備考
1	すぽっとQ テント本体	1	
2	収納袋	1	KJ-10

標準付属品

番号	品名	数量	備考
1	連結布	1	
2	テント固定ロープ	4	テント本体に取付け済み 8mm(厚さ)×7m(長さ)
3	ハンディーブロア	1	AM-70 口径アダプター付
4	フットポンプ	1	BRAVO-9
5	補修セット	1	はけ、サンドペーパー、口栓(予備) 接着剤、補修布、タルク
6	ペンシル型圧力計	1	補修セットの袋に封入
7	PH口栓スパナ	1	
8	テントペグ	4	テント固定ロープ用
9	ロープ付きテントペグ	4	固定用
10	付属品収納箱	1	RX-130



連結布



ハンディーブロア



フットポンプ



補修セット



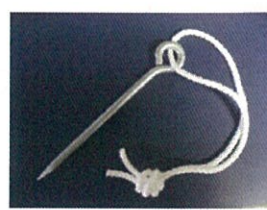
ペンシル型圧力計



PH口栓スパナ



テントペグ



ロープ付きテントペグ

事前確認

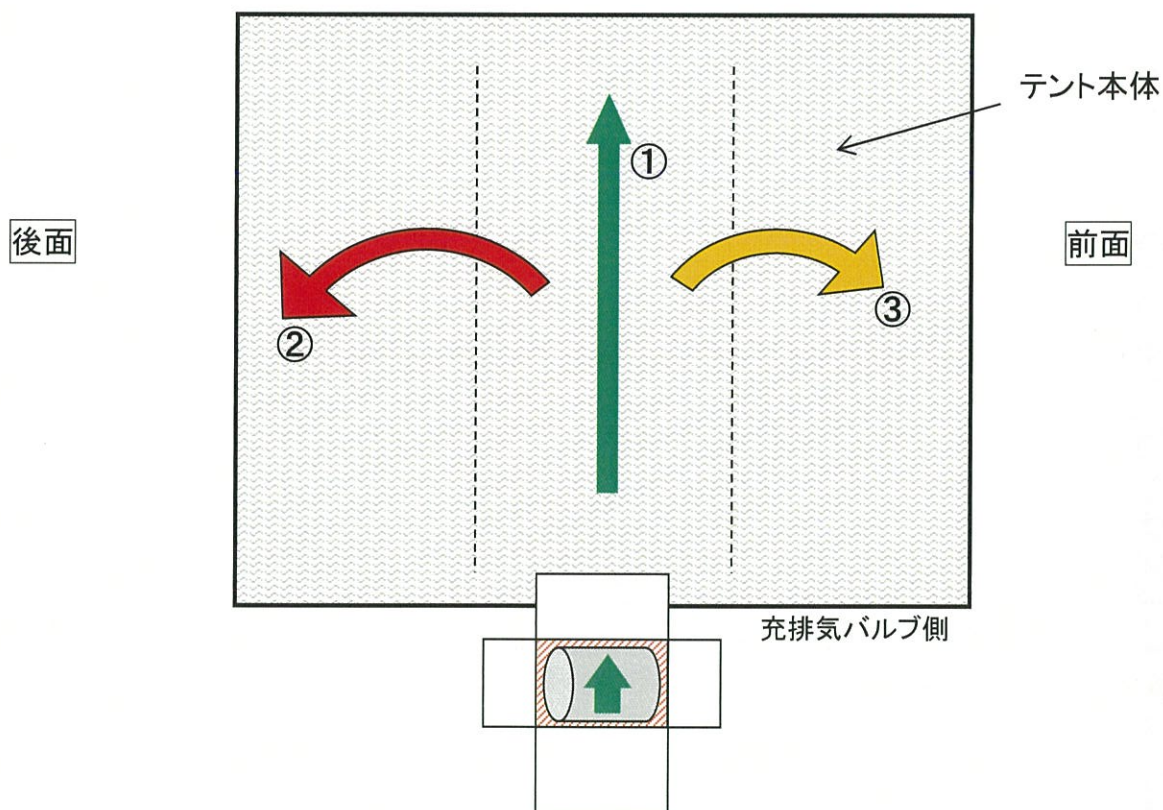
場所の選定は可能な限り次の条件に合った場所を選んでください。

- 1) 平坦な場所で、小石、その他突起物があれば取り除いてください。切り株は避けてください。
- 2) 風が吹いている時は風上にテント側面を向けて、風下側から充気できるようにテントを配置してください。

充気前の準備

- 1) 本体を収納袋から取り出し、下記の要領で広げます。

設営イメージ図



※この矢印(  )は展開方向を示します。



注意

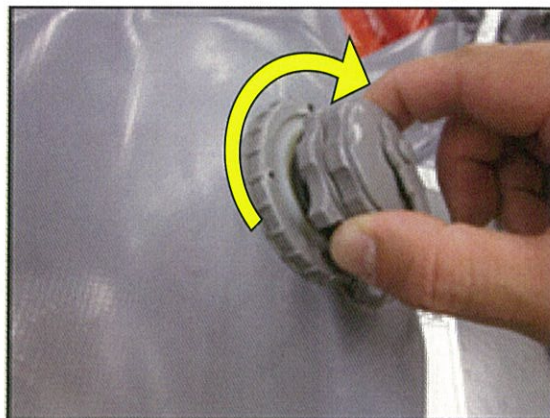
テントの運搬は収納袋の取手を持って行ってください。また、絶対に引きずらないでください。

- 2) 折り畳んであるテントを収納袋の矢印方向に展開し、広げます。テントコーナー部の取手を引っ張り、気柱・天幕などのよじれ・シワを均等に伸ばします。
- 3) 風が吹いている時はあらかじめ各メイン気柱端に土のう等をアンカーとして置いて固定してください。
- 4) 充排気バルブの取り付け

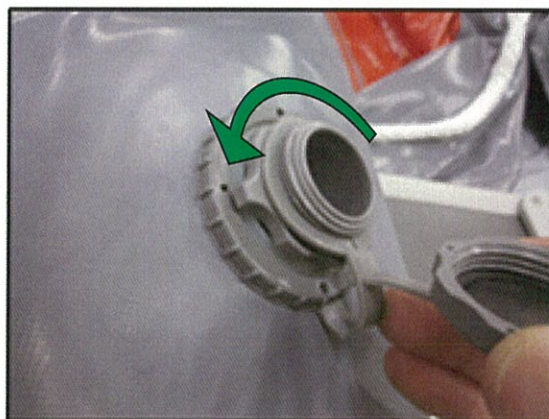
本製品には充排気バルブが2個取り付けられています。バルブ本体を右に回して取り付け、バルブキャップは外した状態にしてください。



バルブ本体をバルブ口に取り付けます



時計回りに回して締めます



バルブキャップは反時計回りで外します



注意

使用中のエア漏れを防止するために、次の事項を守ってください。

- ・ バルブを取り付ける前に、バルブ本体、Oリング等に異常が無いことを確認してください。正常でないものを取り付けた場合、使用中にエア漏れが生じる可能性があります。
- ・ バルブ本体がバルブ口に斜めに取り付けられていないことを確認してください。

充 気

ハンディーブロアAM-70 による充気



注意

送風機の取扱いについては、「ハンディーブロア AM-70 取扱説明書」を良くお読みください。



充排気バルブにホースを差し込みます。
(付属の口径アダプターを使用)



メインモータースイッチ(オレンジ色)を押すと
圧力を18.4kPaまで入れることができます。



ブースタースイッチ(赤色)を押すと
圧力を37.6kPaまで入れることができます。



注意

テントが立ち上がった後に空気を補充するときは、1分以上連続運転することは避けてください。テントが展張したらハンディーブロアのスイッチをOFFにしてください。



注意

安全弁は約22.5kPaで作動するようにセットされています。安全弁が作動したら直ぐに充気を停止してください。

フットポンプによる充気



注意

フットポンプを勢いよく踏み切らないようにご注意ください。ポンプが破損する可能性があります。

フットポンプを使用する際は、下図のようにポンプ本体の中心付近の口にホースを接続して使用します。



ホース接続前

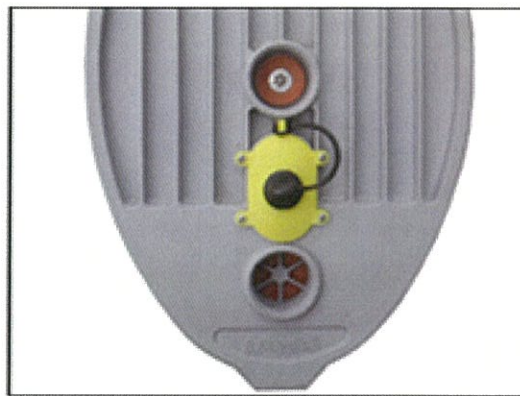


ホース接続後

高圧で充気する際は、圧力調整キャップを外して使用します。低圧で充気する際は、キャップを取り付けた状態で使用します。



高圧充気状態（キャップを外す）



低圧充気状態（キャップを付ける）

充気後の作業

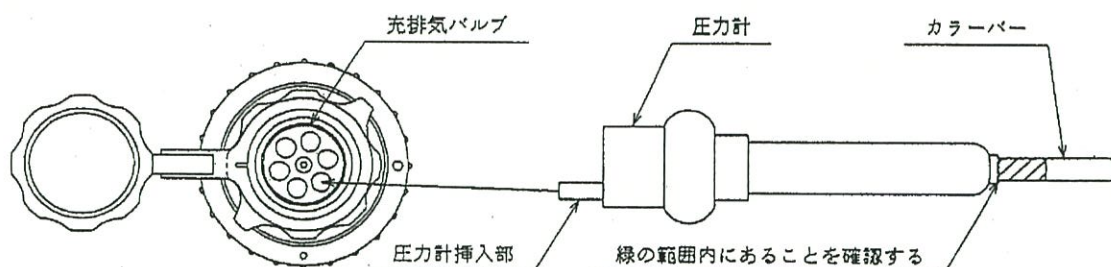
- 1) テントが立ち上がったなら、床の取手を引っ張って、床のシワを均等にのばしてください。
- 2) 付属のペンシル型圧力計で内圧を確認し、内圧が不足している場合は空気を補充してください。

ペンシル型圧力計の使用法

- 1) ペンシル型圧力計挿入部の凸部を充排気バルブ本体内部の凹部（○形状）に合わせて、差し込みます。ペンシル型圧力計はねじるようにして奥まで差し込んでください。

- 2) 適正にペンシル型圧力計が差し込まれると、カラーバーがチューブの圧力で押し上げられます。この時、ペンシル型圧力計の端部(白プラスチック部)が緑の範囲内にあることを確認してください。

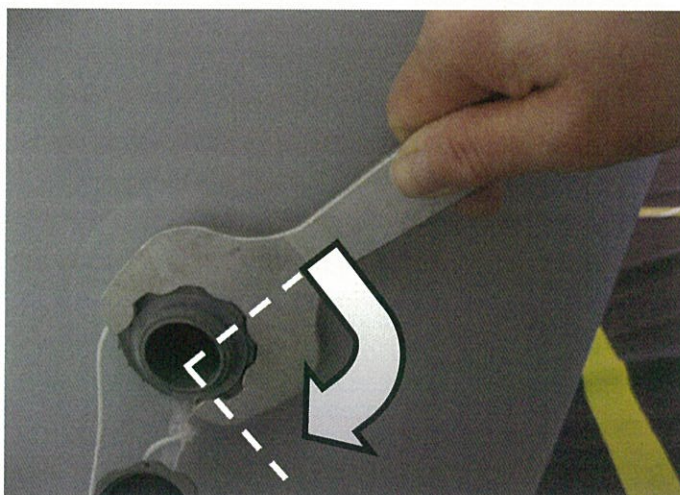
適正内圧…18.0～22.0kPa



⚠ 注意 全ての作業が終了したら、充排気バルブのキャップを確実に締めてください。

⚠ 注意 エアータントの気柱内圧は、気温の変動により変化します。気温が下がると内圧は下がりますので、ペンシル型圧力計で内圧を確認してください。内圧が不足している場合は、付属のフットポンプなどで適正な内圧まで空気を補充してください。温度が上昇すると内圧は上がりますが、安全弁が取り付けられていますので一定圧力(約22.5kPa)以上になることはありません。

テントを長期展張するにあたっての注意



⚠ 注意 エアータント展張後、充排気バルブをしっかり手締めした後、付属の口栓用スパナでしっかり増し締めしてください。

テントの固定

設営場所の状況に応じて、テントペグ、土のう等でテントを固定してください。

固定器具

1) テント固定ロープ

テント固定ロープが本体前後面に各2本、計4本取り付けられています。付属のテントペグに固定して使用してください。

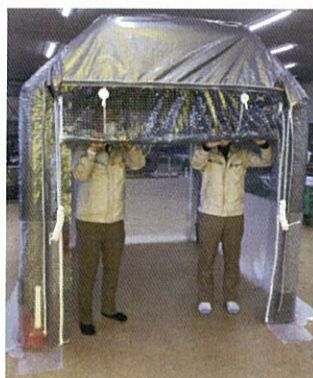
2) 土のう

土のうの重量は1袋20kgとして配置してください。

テント取付け部品・付属部品の取扱い

1) 前面出入り口

前面には両脇部分にファスナーが取り付けられており、のれん状に開放が可能です。また両側の表裏に取り付けられたベルトで巻き取ることができます。



2) 給排気用ダクト(外部取入口)

天幕側面両側に各2箇所取り付けられています。空調用のダクトや電源コードをテント内に引き込む際に使用してください。



注意 ご使用にならないときは紐を絞って、カバーを閉じた状態にしてください。

3) 吊り下げ用 D カン

横支柱に各2個、計6個の吊り下げ用Dリングが取り付けられています。照明器具等を取り付けることができます。



⚠ 注意 1ヶ所のDリングに吊り下げる重量は、10kg以下としてください。

4) テント固定ロープ

メイン気柱の上部4ヶ所にはロープが取り付けられています。テントを固定する際に使用ください。

5) 取手

床部の四隅には取手が取り付けられています。移動する際には、この取手でテントを持ち上げるようにしてください。

⚠ 注意 テントは絶対に引きずらないでください。

6) 連結布

連結布が取り付けられるように側面にアタッチメント用ファスナー（約5m）がついています。

テントを連結させる際はこのファスナーに連結布を取り付けてください。



連結方法

- ① 連結しようとするテントを40cm程度離して並べ、連結面の出入口を巻き上げ開放します。この時、連結するテントの連結面にあるファスナーのスライダーの有無を確認してください。（ファスナーの組み合わせがうまく合致するようにします）
- ② ファスナーの組合せに注意して連結布を取り付けます。
- ③ 一方のテントを移動させて、連結布に弛み、シワがないように調整します。

7) 気柱内側カバー

気柱内側カバーは、面ファスナーにより取り外しが可能となります。一般的には取り外しませんが、外した場合は、充排気バルブ、安全弁、下部固定面ファスナーの位置を確認して取り付けを行ってください。



収 納

排気する前に行うこと

1) テント内部を必ずほうき等で清掃して、ゴミ、湿気、汚れのない状態にしてください。

⚠ 注意 テント内に小石、ガラスの破片など鋭利なものが絶対がないことを確認してください。また、テントは十分に乾燥させてください。

2) テントペグ、土のう等などの固定具をはずし、ロープは小さくまとめます。

3) 出入口ファスナーを 1/3 程度を開けます。

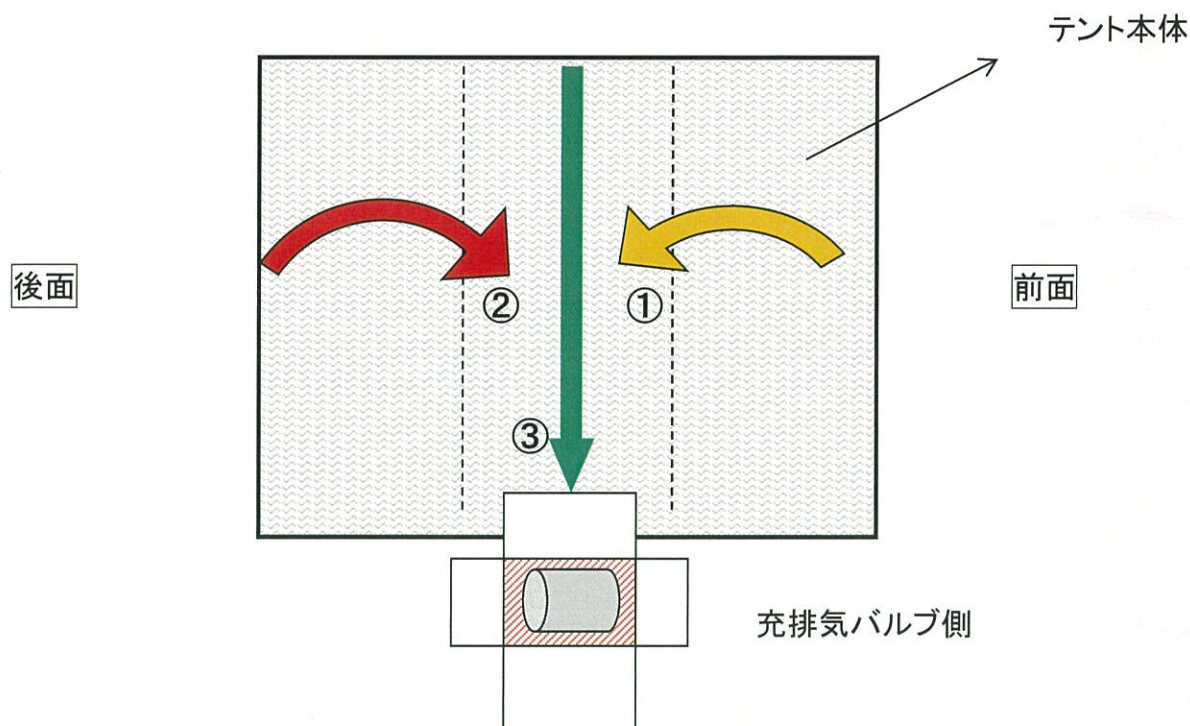
風が吹いている時は、風上側のファスナーは排気後に開けてください。

排気

1) 充排気バルブ(2個)のバルブ本体を左に回して外します。

2) テント固定ロープを引くなどして、排気時にテントが横に倒れるのを防ぎます。

収納イメージ図



※この矢印(  )は収納方向を示します。

収納方法

※エアーテントの収納を安全に行うため、2人一組での作業を推奨します。



①充排気バルブを左に回して
外し、排気する



②気柱が中折れするように、
補助をする



③排気後、天幕からエアーが抜
けるのを待つ



④バルブ開放状態



⑤前後面を内側に伸ばす



⑥シートの境目で二つ折りにして
外側に伸ばす



⑦側面を内側に伸ばす



⑧前後面同様、シートの境目で二
つ折りにして外側に伸ばす



⑨極力、四角形になるように整える



⑩右側の1／3を折り畳む



⑪反対側も1／3を内側に折り畳む



⑫口栓側の下に収納袋を置く



⑬口栓側に向かって巻いていく



⑭4辺の裾部分を内側に畳み、
収納袋の内ベルトを締める



⑮収納袋のベルトをセットして終了



⑯1人で持ち運びが可能

修理方法

修理箇所の発見

使用中の損傷や比較的大きな損傷は簡単に発見できますが、小さな穴(ピンホール)は意外と発見しにくいものです。次の順序で点検し、空気漏れ箇所を調べてください。

- 1) チューブの内圧を通常使用圧より幾分高めにし、石鹸水を全面に塗ってください。空気漏れ箇所が泡立ち、容易に発見できます。
- 2) 空気漏れ箇所にマーキングしてから石鹸水を落とし、損傷部周辺の汚れをベンジンまたはシンナーできれいに拭き取り、よく乾かしてから下記手順で修理を行ってください。

気柱(合成ゴム製)の修理方法

- 1) 接着剤は補修セット内の「G17」もしくは市販のゴム系接着剤をご使用ください。

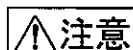
傷の大きさが3cm未満の場合の修理方法

1 修理箇所のマーキング・パフ・糊塗り マーキングは、破れ箇所より2~3cm広めに書き、マーキング内及び補修布にパフ掛け(サンディング)をし、糊を均一に塗布します。指先でタッチした際に、糊が糸を引かない程度に乾燥させます。糊の塗布と乾燥確認を3回繰り返します。	2 補修布の接着 損傷面と補修布をマーキングに合わせて静かに接着し、矢印のように中心から外側に向かってローラー状(木製、金属製の)物で均一に圧着します。 ※少なくとも6時間以上乾燥させてから充気し、エアリー漏れをチェックします。	3 修理後の確認 ハケ等を使用し、補修布の周りに石鹸水を塗布し、目視で泡立ちの有無を確認します。 ※泡立ちがある場合は補修が不完全の証拠です。補修布を完全に剥がして、最初からやり直してください。
---	---	--

傷の大きさが3cm以上の場合の修理方法チューブ内側・外側の両面から補修布を接着します。

チューブ内側・外側の両面から補修布を接着します。操作は小さな傷の場合と同じですが、内側の補修布を貼る場合は以下のガイドを参考にしてください。

チューブ内側の補修 1 傷口を人差し指が完全に入る程度まで広げます。内側から補修布を貼る場合、傷口が広い方が補修し易く、完全な修理を行うことができます。 2 補修布を傷口から丸めて差し込み、中で静かに開いて補修布の中心を傷口に合わせます。そして、補修布に傷口の形状を書き写してください。(右図参照) 3 本体側接着部のパフ掛け(サンディング)と接着剤塗布は、必ず補修布のサイズより大きめに行ってください。 4 内側の補修布接着に際しては、補修布の接着剤塗布面をポリエチレンシートなどでカバー(塗布面同士のくっつき防止)して傷口より内部に差し込んでください。 5 差し込んだ補修布のマーキングを本体の傷口に合わせ、補修布のポリエチレンシートを静かに剥がして補修布を接着します。	チューブ外側の補修 傷の大きさが3cm未満の場合の修理方法と同様の要領で補修を行います。 内側の補修布の中心を傷口と合わせるため、補修布に傷の形状または傷の中心をボールペン等で印を付けてください。	補修キット内容 ・補修布: 本体、応用 ・接着剤 (市販のゴム系接着剤でも使用可) ・補修説明書 ・サンドペーパー ・保管粉: タルク (打ち粉) 補修布を傷口より差し込み、補修布に傷口と同じマーキングをしてください。
---	--	--



注意

付属品に付いています補修セットは、5cm程度までの傷は修理可能です。

傷が大きく補修が困難な場合は、弊社工場での修理も受付けておりますので、お問い合わせください。

天幕・床(塩化ビニール製)の修理方法

- 1) 接着剤は補修セット内の「ビニール糊」(銀色のチューブ入り)、もしくは市販の塩ビ系接着剤をご使用ください
- 2) 上図1にあるマーキング内及び補修布へのバフ掛け(サンディング)の必要はありません。その他の修理手順は気柱の場合と同じです。

保守・点検・保管

- 1) 1年に1回以上は展張を行い、気柱の気密点検、付属品などの保守点検を行ってください。
- 2) エアーテントは必ず収納袋に入れて保管し、保管場所は直接日光の当たらない場所、できれば冷暗所で保管するようにしてください。
- 3) 修理不可能な時は、販売代理店またはメーカーまでご相談ください。

アキレス株式会社

開発営業部

本社：〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
TEL 03-5338-9642 FAX 03-5338-9653